



「トビタテ! 留学 JAPAN」とは、文部科学省が2013年から取り組んでいる事業で、意欲と能力ある全ての日本の大学生や高校生が、海外留学に自ら一步を踏み出す機運を醸成することを目的として始まりました。現在は、「日本の若者が世界に挑み、“本音と本気”で国内外の人々と協働し、創造と変革を起こす社会」を構築することをビジョンとして掲げ、留学を支援しています。

この夏、2年5組中山菖さん(広田中学校出身)がこの制度を利用して、約1か月間カナダのバンクーバーを訪問しています。

中山さんは、もともと将来看護師になることを希望しており、看護師について、いろいろと調べる中で、**CLS (Child Life Specialist チャイルド・ライフ・スペシャリスト)**の存在を知ります。

CLSとは、医療環境にある子どもや家族に対して、心理社会的支援を提供する専門職です。子どもや家族が抱えうる精神的負担を軽減して、主体的に医療体験に臨めるよう支援していきます。

アメリカで始まったこの専門職は、日本であまり知られておらず、現在日本国内では、36施設50人のCLSの専門職として働いているそうです。中山さんが留学する目的は、このCLSについて自分自身の理解を深め、その存在をもっと広めることにあります。

実際にバンクーバーでは、BC Children's Hospitalに行き、CLSについて学ぶそうです。現地で学んだことをもとに、2学期から本格的に探究活動を進めていきたいという抱負を語ってくれました。

バンクーバーでは、CLSについて学ぶのはもちろんのこと、現地でたくさんの経験を積んでほしいと思います。留学の経験については、文化祭で報告してもらう予定です。



中山さんと担任の松本先生